

(2) 授業実践

ア 動作化や役割演技を効果的に取り入れた授業実践～1・2年の取組～

① 第1学年「はしの上のおおかみ」(親切, 思いやり)

ねらい: 身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	共に考える道徳授業 展開の工夫
<p><b>ふかめる</b></p> <p>問題意識をもたせる発問</p>	<p>●資料を視聴し、話し合う。</p> <p>心に残ったことやもっと知りたいことはありませんか。</p> <p>・くまさんはとても優しくかったです。 ・おおかみさんは初めは意地悪だったけど、どうして後から優しくなったのかな。</p> <p>「えへん、へん」と言っているときのおおかみさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>えへん、へん。意地悪してうれしいな。ぼくが1番だ! いい気分だな。</p>  <p>【資料 9】</p>	<p><b>動作化・役割演技</b></p> <p>児童を起立させ、おおかみになった気分で「えへん、へん」と言わせた。児童は、意地悪を楽しんでいるおおかみさんになりきって動作化し、心情に迫ることができた。</p>
<p>道徳的価値に迫る発問</p>	<p>くまさんに抱き上げられてもらったときのおおかみさんは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>(教師が児童を抱き上げる演技) (教師が児童にインタビュー)</p> <p>【資料 10】</p>  <p>【資料 11】</p>  <p>親切にされるって、いい気持ちがするんだなあ・・・</p> <p>渡してもらって、うれしい気持ちになりました。くまさんみたいになりたいなあ。</p>	<p>今、どんな気持ちになったかな?</p> <p><b>動作化・役割演技</b></p> <p>教師がくまさん役、児童がおおかみさん役になった。役割演技後、教師がインタビューすることで、児童の考えに切り込んだり、補足したりすることが可能になった。</p>
<p>道徳性をより高める発問</p>	<p>※くまさんの真似をして、親切にしたおおかみさんの台詞</p> <p>「えへん、へん」と言っているときのおおかみさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>えへん、へん。おおかみさん、優しくなったから、優しい声で言ったよ。</p>  <p>【資料 12】</p>	<p><b>動作化・役割演技</b></p> <p>うさぎさんに親切にしたおおかみになって、再度「えへん、へん」と言わせた。児童の声は1回目と違い、確実に優しい声に変わっていた。</p>

## ② 第2学年「モムンとヘーテ」(友情, 信頼)

ねらい：友達と仲良く助け合っていこうとする心情を育てる。

みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	共に考える道徳授業 展開の工夫
<p><b>ふかめる</b></p> <p>問題意識を もたせる発問</p> <p>道徳的価値 に迫る発問</p> <p>道徳性をより 高める発問</p>	<p>●資料を視聴し、話し合う。</p> <p>心に残ったことやもっと知りたいことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘーテがモムンに「ごめんね。」と言ったのがいいと思った。</li> <li>・モムンとヘーテがいっしょに逃げられて良かった。</li> </ul> <p>栗の実を持って行ってしまったヘーテをモムンは、どう思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独り占めして、ヘーテはずるい。</li> <li>・皮で我慢しよう。</li> </ul> <p>どうしてモムンはいっしょに逃げようと言ったのでしょうか。</p> <p>※ペアトーク</p>  <p>【資料13】</p> <p>※役割演技：児童がモムン役・教師がヘーテ役</p>  <p>【資料14】</p> <p>はじめの二人と、今の二人はどちらが友達といえるのでしょうか。わけを言ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の二人です。わけは、ごめんなさいが言えたから。</li> <li>・今の二人です。わけは、助けているから。</li> </ul>	<p><b>話し合い活動</b></p> <p>自分たちの考えを道徳ノートに書いた後、ペアトークをし、意見の交流をした。自分の考えと違う多様な意見に触れることができた。</p> <p><b>動作化・役割演技</b></p> <p>モムン役の児童は、ヘーテ役の教師と即興的に演技をし、会話を交わす中で、友達の素晴らしさを実感できた。</p>

## ③ 考察

- ・動作化や役割演技を取り入れることで、児童が登場人物になりきることができ、自分の事として捉え、心情に深く迫ることができた。心情を考えることが苦手な児童も考えやすくなり、共に学び合うことができた。
- ・児童同士ではなく、教師が片方の役をすることで、「どうしてそう思ったの。」「本当は、こんな気持ちじゃないのかな。」などと、切り込んだ発問を入れることができた。そのことで、多様な意見が出され、道徳的価値についての理解がより深まった。

イ 体験を生かし、自分の事として考えさせる授業実践～4・5年の取組～

① 第4学年「ふるさとのたから 清和文楽」(伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度)

ねらい：郷土の人々や文化、自然及び伝統などに親しみを持ち、郷土を大切にしようとする心情を育てる。

みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	共に考える道徳授業 展開の工夫
<p><b>みとおす</b></p> <p>道徳的価値 につなぐ工夫</p>	<p>●「御船町のたから」についてアンケート結果を知る。</p> <p>「御船町のたから」は何ですか。</p> <p>・恐竜博物館 ・御船川 ・があっば祭り</p> <p>この写真覚えていますか。清和文楽です。・・・ 今日は「ふるさとのたからについて考えていきましょう。」</p> <p>・清和文楽だな。 ・人形がおもしろかった。</p> <p>人形をあやつるのって、難しいんだな。【資料15】</p> 	<p><b>体験を生かす</b></p> <p>総合的な学習の時間で学んだ地域学習と重ねた。</p> <p><b>体験を生かす</b></p> <p>見学旅行の写真を見せ、文楽を守っている人たちと出会った共通体験を思い出させた。</p>
<p><b>ふかめる</b></p> <p>問題意識をもたせる発問</p> <p>道徳的価値に迫る発問</p>	<p>●資料を聞き、話し合う。</p> <p>心に残ったことはありませんか。</p> <p>・おばあちゃんが練習を頑張っていることがすごいと思った。</p> <p>なぜおばあちゃんは忙しい時でも、人形の練習に行くのでしょうか。</p> <p>・清和文楽は清和の宝だから、頑張って練習に行こうと思った。わけは、自分も若宮神社のお祭りに出ている。何回も練習があったけど、頑張って練習に行こうと思ったから。 ・受け継ぐ人が一人でも増えるように頑張ろう。</p> <p>ぼくは清和文楽のために何ができると考えたのでしょうか。</p> <p>・畑仕事を手伝って、おばあちゃんを楽にしたい。自分もおばあちゃんにもっと文楽をしてほしいので、手伝うと思うからです。 ・ぼくも黒衣になって、受け継いでいく。</p>	<p><b>体験を生かす</b></p> <p>児童が自分の事として考えられるように「わけは、自分も...したことがあったから」「自分だったら...」と発言するよう指示した。</p> <p>【資料16】</p> 
<p><b>ねりあげる</b></p> <p>自分を見つめさせる発問</p> <p>道徳的実践意欲を高める工夫</p>	<p>●自分たちのふるさとを見つめ直す。</p> <p>自分たちが住んでいる「御船町のたから」は何ですか。そのわけも発表してください。</p> <p>・「があっば祭り」。わけは、昔から受け継がれていて、みんなを笑顔にするから。 ・「御船めがね橋」。今は無いけれど、御船町の人たちの心に残っているから。</p> <p>●地域の方の説話を聞く。</p> <p>御船町ボランティアガイドさんのお話を聞きましょう。</p> <p>・御船町の人たちも、御船のことを大事にしているんだあ。 ・私たちも、御船町の宝だと分かった。 ・これからも、御船町の宝を大切にしていこう。</p> <p>御船町の宝って、いろいろあるんだなあ。僕たちが宝物って聞いてびっくりしたよ。</p>	

② 第5学年「自然とともに」（自然愛護）

ねらい：水俣の海を手がかりに、GTの生き方に触れて身近な自然環境を大切にしようとする心情を育てる。

みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	共に考える道徳授業 展開の工夫
<p><b>みとおす</b></p> <p>道徳的価値 につなぐ工夫</p>	<p>●写真を見て、川と海のつながりを意識させる。</p> <p>どこの川（海）だろう</p> <p>・芦北の海だ。磯遊びしたぞ。 ・最後の一枚はどこかな。</p> <p>集団宿泊訓練では、とてもきれいな海で生き物を見つけましたね。</p>  <p>【資料17】</p>	<p><b>体験を生かす</b></p> <p>御船川での活動や集団宿泊訓練の様子（共通体験）を振り返らせ、本時のねらいとつないだ。</p>
<p><b>ふかめる</b></p> <p>道徳的価値 に迫る発問</p>	<p>●森下さん（GT）の話を聞いて考える。</p> <p>①子どもの頃、海で遊んだ話。 ②水俣に戻って来た頃の話。 ③現在の活動についての話。</p> <p>森下さんは、どんな思いで活動しているのだろう。</p> <p>・魚がいっぱいいるから海を汚したくない。 ・きれいな海をいつまでも残したい。 ・水俣病のイメージを無くしたい。 ・昔から好きだった海を大切にしたい。</p>  <p>みなさんが言っていたとおりです。大好きな水俣の海を守りたいという思いです。</p> <p>【資料18】</p>	<p>【資料18】</p>
<p><b>ねりあげる</b></p> <p>自分を見つめさせる発問</p>	<p>●森下さんからの問いを聞いて自分を振り返り、自分にできることを考える。</p> <p>御船町の自然はどうですか。今の御船の自然のことを教えてください</p> <p>城山には春に桜が咲いて、夕日がきれいだな。でも校区にゴミが落ちていることがあるよ。</p> <p>御船川にはシラスギヤや小魚がいるよ。</p>  <p>【資料19】</p>	<p><b>体験を生かす</b></p> <p>GTから御船町について問われたことで、身近な御船町の自然を振り返り、GTに御船の自然を伝えようと考えていた。</p>

③ 考察

- ・今までの道徳の授業では、児童が概念的な意見を言う場面が多く見られた。そこで児童が自分の事として考える事ができるよう、自分の今までの体験と重ねて考えるような学習活動の工夫を重ねた。導入で、関連した体験活動の写真を提示したり、今までの体験を思い起こすことができるような言葉かけをしたりした。
- ・価値ある共通体験を教育活動全体で行うことが大事である。見学旅行や集団宿泊訓練等の共通体験を道徳の授業で共に見つめ直し、積極的に意見の交換することで道徳性が高まった。

ウ 道徳的価値に迫る発問を工夫した授業実践～3・6年の取組～

① 第3学年「ありがとうチャンプ」(生命の尊さ)

ねらい：三浦さんのチャンプに対する深い愛情を感じることを通して、命を大切にしようとする心情を育てる。

みふねっこ 学習過程	学 習 活 動 (教師の発問・指示・予想される児童の反応)	共に考える道徳授業展開の工夫
<p><b>ふかめる</b></p> <p>問題意識をもたせる発問</p>	<p>●教材を視聴し、話し合う。</p> <p>心に残ったことやもっと知りたいことはありませんか。</p> <p>・三浦さんがチャンプの世話を続けたところが心に残った。 ・チャンプが声を出せてよかった。</p> <p>安楽死をすすめられ、すぐに返事ができなかった三浦さんはどんなことを考えていたでしょう。</p> <p>・どうしよう。でも、チャンプを死なせたくない。 ・大好きなチャンプとこれからも一緒にいたい。</p> <p>なぜ三浦さんは、チャンプとキャバを抱きしめて涙を流したのでしょうか。</p> <p>・今まで声を出すことができなかったチャンプが吠えたから。 ・キャバの命が助かって嬉しかったから。 ・チャンプがキャバの命を救ってくれたから。</p>	<p><b>発問の工夫</b></p> <p>児童の問題意識やこだわりが生み出されるような発問をした。予定していた発問と児童の問題意識に違いがあった場合、臨機応変に対応するようにした。</p> <p><b>発問の工夫</b></p> <p>児童にとって、考える必然性がある発問をする。チャンプのキャバを思う気持ちの強さに驚く三浦さんの気持ちに共感させるようにした。</p>
<p>道徳的価値に迫る発問</p>	<p>三浦さんは、チャンプにありがとうと思ったと思います。今まで吠えることができなかったのに、吠えてキャバの命を救ってくれたからです。</p>	
<p>道徳性をより高める発問</p>	<p>三浦さんは、どんな人だと思いますか。</p> <p>・命を大切にしている人。 ・思いやりのある優しい人。 ・あきらめない人。</p> <p>※隣の児童とのペアトークを取り入れることでどの児童も参加できるようにする。</p>	<p>【資料20】</p> <p><b>発問の工夫</b></p> <p>中心発問で高まった道徳的価値をより深める発問をした。三浦さんがどんな人かを話し合うことで、「生命の尊さ」を支える道徳的価値が多様にあることに気付かせることができた。</p>
<p><b>ねりあげる</b></p> <p>自分を見つめさせる発問</p>	<p>●今までの自分を見つめ、これからどうしたいか考える。</p> <p>自分の生活をふり返りながら、今日の授業の感想を書いてみましょう。</p> <p>・今までは、犬の世話をお母さんに任せていたけど、今度からは自分でしたい。 ・授業をして、三浦さんのように動物に対して思いやりのある人になりたいと思った。</p>	
<p><b>つなぐ</b></p> <p>道徳的実践意欲を高める工夫</p>	<p>●児童の作文を紹介する。</p> <p>友達が書いた作文を紹介します</p> <p>・ぼくの犬がなくなったときのことを思い出した。 ・これからは、命を大切にしていきたい。</p>	<p>【資料21】</p> <p>犬が亡くなって悲しかっただろうなあ。どんな命も大事にしていきないな。</p>

② 第6学年「最後のおくりもの」(感謝)

ねらい：日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする心情を育てる。

みふねっこ 学習過程	体験活動を生かした学習活動 (教師の発問・指示・児童の反応)	共に考える道徳授業 展開の工夫
<p>道徳的価値 につなぐ工夫</p>	<p>●2枚の感謝の気持ちを伝えているか振り返る。</p> <p>おくり物といったら、どんなこと、どんな物を想像しますか。</p> <p>・プレゼント    ・手紙    ・お年玉</p> <p>今日は、おくり物の意味することについて考えてみましょう。</p>	<p><b>発問の工夫</b></p> <p>題名にある「おくり物」に関心を持たせる。授業前では、おくり物が児童にとってどんな物なのか実感させた。</p>
<p>ふかめる</p> <p>道徳的価値 に迫る発問</p> <p>道徳性をより 高める発問</p>	<p>●教材を視聴し、話し合う。</p> <p>二人にとっての最後のおくり物とは、何だろう。</p> <p>(ロベールがおじいさんからもらったおくり物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・劇団に入りたい夢【おじいさんも同じ夢】</li> <li>・自分を見捨てない心・お金でなく気持ち・心</li> </ul> <p>(おじいさんがジョルジュからもらったおくり物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恩返し的心</li> <li>・諦めない気持ちと夢</li> <li>・ロベールの夢</li> <li>・おじいさんが最後を迎えるまでのロベールと話せた時間</li> </ul> <p>二人の心で共通する心は何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の心                      ・幸せだった心</li> <li>・自分の夢に最後まで向き合った心</li> </ul>	<p><b>発問の工夫</b></p> <p>ロベール・ジョルジュじいさん両方の立場に立って考えさせることで、多面的・多角的な考えに触れることができた。</p>  <p>【資料22】</p> <p><b>話し合い活動</b></p> <p>二人の心には感謝が共通していたことに気付いた。導入では、おくり物とは物というイメージが強かったが、おくり物は「心」であったことを学ぶことができた。</p>
<p>ねりあげる</p> <p>自分を見つめさせる発問</p>	<p>●自分が支えられた経験を振り返る。</p> <p>ロベールやジョルジュじいさんのように心のおくり物をもらっていませんか。</p> <p>あなたが、伝えていないありがとうございますありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室(物)へありがとう。</li> <li>・家族へ地震の時、支えてくれてありがとう。</li> <li>・宿題係と先生へ教えてくれてありがとう。</li> </ul>	 <p>【資料23】</p> <p>友達へ言いたいな</p>

③ 考察

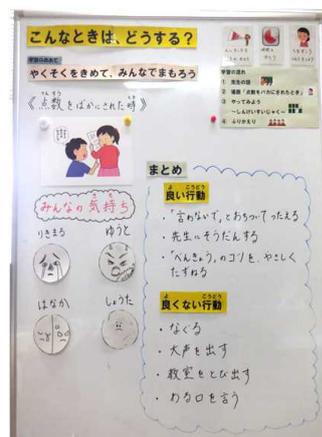
- ・共に考える授業展開を目指す際、発問の工夫は不可欠だった。「みふねっこの学習過程」に沿った発問の工夫を実践した。導入では「道徳的価値につなぐ工夫(発問)」、展開では「問題意識を高める発問」「ねらいとする道徳的価値に深く迫る発問」「自分を見つめさせる発問」、終末では「道徳的実践意欲を高める工夫(発問)」という流れを大事にしてきた。
- ・発問の組み立てを工夫することで児童の問題意識が生み出された。また児童の心を動かし、多様な考えを引き出すような中心発問をすることで、話し合いが活発になり、他者理解へとつながった。そのことで、児童一人一人の道徳的価値の自覚を深めることができた。

## エ UDの視点を取り入れた授業実践～特別支援学級の取組～

### ① なかよし2組（自閉症・情緒障がい学級）【「こんなときは、どうする？」（善悪の判断、自立、自由と責任）】

#### ・体験活動と道徳の授業をつなぐ取組

本題材の授業では、資料を自分のこととして考えられるように「学校生活で経験のある一場面」を取り上げて実施した。人から嫌な事を言われる経験は誰にでもある。そんな場面に遭遇した際の「適切・不適切な行動」について、「善悪の判断」をもとに自立活動「コミュニケーション」の視点を併せながら学習を行った。



【資料24 コミュニケーションの視点】

#### ・UDの視点

自分の気持ちを言葉に表すことを苦手とする児童を考慮し、自分の気持ちを表情のイラストを描くことで表すように手立てを行った。中には「怒り」と「寂しさ」の両方を、一つの「顔の枠」に半分ずつ描く児童もいた。



【資料25 授業の様子】

### ② 交流学級での取組（UDの視点を踏まえて）

#### ・道徳の授業で自分の気持ちを表現する取組

自分の思いを出せるように道徳の授業では視覚的支援を取り入れた。場面の様子を分かりやすくするために、ノートを利用し挿絵を板書と同じタイミングで出した。同じ挿絵が手元にあることで、安心して考えることができた。

ノートの活用  
手元にある挿絵を見て考える。



【資料26】

また、文字を書くことが苦手な児童には、児童のつぶやきをノートに書き、それを手本にさせることで、学習シートに安心して書けるようにした。

付箋紙の活用  
教師が書き留めたメモを見て  
安心して発表する。

また、発表したくてもなかなか自分の考えをまとめることができず自信が持てない児童には、机間指導の時間に聞き取りをした。児童から聞き取ったことを付箋紙にメモして、児童の発表の手助けとした。児童はメモを見ながら安心して発表することができ、さらに学習シート記入時にも利用することができた。



【資料27】